

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年 国語 118 人 社会 119 人 数学 118 人

理科 118 人 英語 118 人

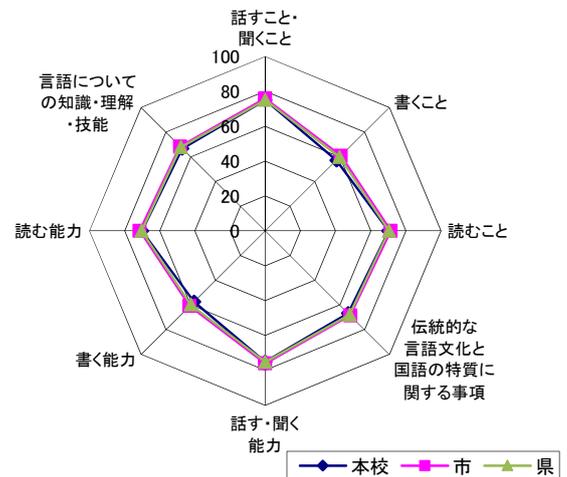
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	75.1	76.0	75.2
	書くこと	57.4	60.9	59.9
	読むこと	70.2	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.8	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	75.1	76.0	75.2
	書く能力	57.4	60.9	59.9
	読む能力	70.2	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	66.8	68.5	68.0



★指導の工夫と改善

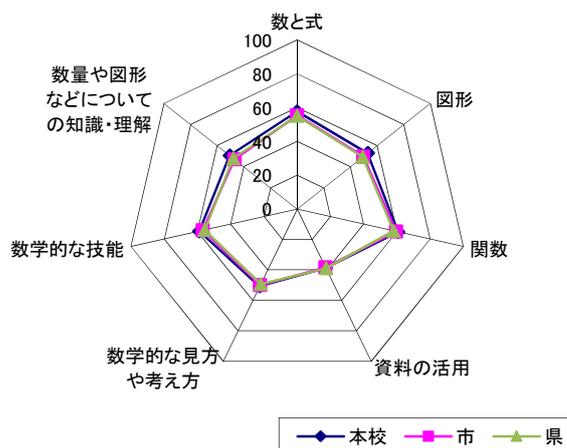
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○「わかりやすく伝えるために話の構成を考える」問題での平均正答率は県や市を約4ポイント上回った。</p> <p>●「話を聞いて、自分の考えとの共通点と相違点を整理する」問題では、市や県より約4ポイント低い。</p>	<p>・相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って聞き取る学習活動を多く取り入れるようにする。また、それぞれの意見を検討して自分の考えを広げ、自分の言葉でまとめて発表するような学習活動を多く取り入れるようにする。</p>
書くこと	<p>●「メモを基に、活動報告書の見出しに合う言葉を書く」短答式問題、「話し合いの内容を参考に、提案することをまとめて書く」記述式問題などの活用分野では、市や県よりも約2.5～8ポイント下回っている。</p>	<p>・一般的な400文字以上の意見文・課題作文・感想文では、読み手や目的に応じた文章を構成や表現を工夫して書けるようになってきたが、出題のような少ない文字数で簡潔な文章を書くことには慣れていないので、出題意図や条件を十分に理解した上で、「簡潔にまとめて」書けるように指導する。</p>
読むこと	<p>○小説「特徴的な表現を踏まえて物語を読む」基礎問題では市や県よりも7～8ポイント高く、小説「物語の展開や表現について自分の考えをもつ」活用問題でも1.5～2ポイント高い。</p> <p>●説明文「文章を読んで、筆者の主張を捉える」基礎問題では市や県よりも4～6ポイント低く、小説「登場人物についての描写を捉えて読む」基礎問題では市や県よりも4.5～5ポイント下回っている。</p>	<p>・「読書の時間」の実施により、全体的に小説を「読む」生徒が多く、その成果が出ている。</p> <p>・今後は、説明文では筆者の考えを正確に「読み取る」力、目的に応じて「読む」力を身に付けさせていけるように、段落構成・接続語・指示語などに注意して「読む」ことができるようにしていく。</p> <p>また、小説などの芸術作品では「登場人物や情景の描写」と「登場人物の心情」の関係などについて気を付けて「読む」ことができるような、応用的な学習を取り入れていくようにしたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字の読み書き・歴史的仮名遣いに関しては、市や県よりも正答率が高いものもあり、また低いものもあり平均的には同程度である。これらは問題によって変化するものなので、評価・分析することは難しい。</p> <p>●「漢字の成り立ち」が市や県よりも約5ポイント低い。</p>	<p>・引き続き漢字の読み書きを身に付けさせるために、漢字練習プリントや小テストを行うなどの手立てを継続する。</p> <p>・文法・語句の知識については、用例の紹介や短作文の練習などを多く取り入れる学習活動を計画していきたい。</p> <p>・漢字の成り立ちや部首などの知識については、新出漢字を学ぶときなど、折に触れて思い出させるような指導を工夫していきたい。</p>

宇都宮市立古里中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	57.7	55.4	55.0
	図形	53.0	49.8	49.2
	関数	60.7	59.6	58.0
	資料の活用	38.7	38.3	38.9
観点	数学的な見方や考え方	50.7	50.0	49.3
	数学的な技能	58.9	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	50.6	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

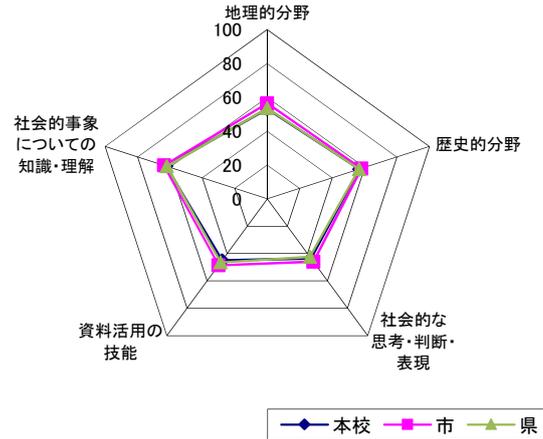
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○平均正答率は県、市よりも高い。</p> <p>○正負の数、文字式、方程式の計算の正答率は県よりも高く、計算の技能は良好な状況が見られる。</p> <p>●基石を並べて正方形を作る問題(必要な基石の数を求めたり、基石の数を式で表したりする問題)の正答率は県を下回った。</p>	<p>・基本的な計算をさらに定着させるために、今後も個別指導や反復練習を充実させる。</p> <p>・規則性を用いて数量を求めること、説明をすることに課題が見られるので、学び合い活動を通して表現力や思考力を高める指導を工夫していきたい。</p>
図形	<p>○平均正答率は県、市よりも高い。</p> <p>○ほとんどの問題で県を上回っている。</p> <p>●おうぎ形の面積を求める基本的な問題の正答率が県よりも2.6%低かった。</p>	<p>・おうぎ形の面積の求め方、体積、表面積の求め方、空間図形の直線や平面の位置関係などの内容の理解が不十分な生徒も多いので、今後、復習する機会を持ち定着を図る。</p>
関数	<p>○平均正答率は県、市よりも高い。</p> <p>○グラフから比例の式をつくることは4.4%、長方形の縦と横の関係を式に表すことは10%県よりも高い。</p> <p>●比例のグラフの活用で、求める方法を説明する問題では正答率が32.2%で、県よりも3.6%低い。</p>	<p>・座標の表し方、比例の式のつくり方などが理解できていない生徒もいるので基本的な内容をしっかりと理解させる。</p> <p>・発展的な課題に取り組ませる機会を多く持ち、学習したことを活用する面白さ、便利さを体験させるようにする。</p>
資料の活用	<p>○度数分布表の見方、中央値の意味、相対度数を求める問題の正答率は県よりもやや高かった。</p> <p>●ヒストグラムをもとに特徴を見出し、よりよいものを選び理由を説明する問題では県よりも正答率が4.2%低かった。</p>	<p>・用語の意味や求め方などを繰り返し確認し、定着を図る。</p> <p>・ヒストグラムや代表値の意味を理解し、それらを用いて資料の傾向をとらえ説明する課題に取り組む機会を持たせる。</p>

宇都宮市立古里中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	53.1	56.4	53.5
	歴史的分野	56.8	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	43.6	46.1	42.5
	資料活用 of 技能	45.0	48.6	46.5
	社会的な事象についての知識・理解	62.4	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

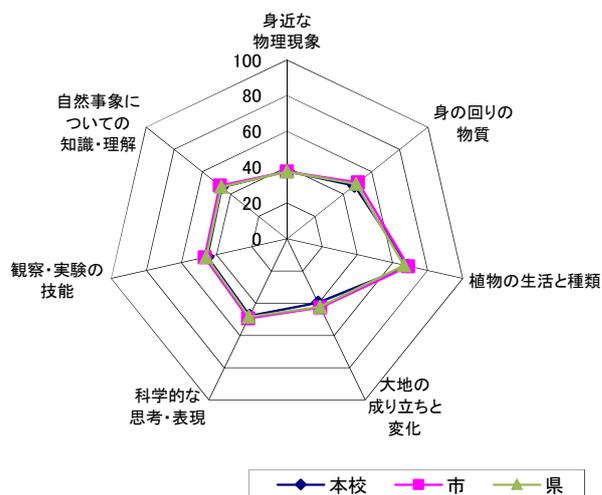
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的な事象の知識・理解について県より平均が高い。 ●本校の正答率は、市・県より低い。 ●グラフの問題で、何を答えればいいのか分からない生徒が多い。 ●資料活用の点においては、各州や各大陸の山脈・川の名前などの「位置」・「名称」などをうる覚えにする生徒が多い。 ●グラフ、記述問題を極端に嫌がる生徒が多いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の太文字となる基本事項を徹底的に確認していく。 ・各授業の冒頭で行う小テストを、一年生からの復習を盛り込み、忘れていた内容をもう一度確認させる機会を増やしていく。 ・地図をただ覚えるのではなく、周囲の地域との関係性や、地理的特徴・産業とのつながりなど複合的な視野で考えさせる。その際に、歴史的な背景などとの関連もつなげていく。 ・グラフを読み取る授業では、「①何が聞かれているグラフなのか ②グラフのどの部分に注目すべきなのか ③複数の情報をどう比較すべきか」という3点をしっかりと指導していく。 ・記述問題に関しては、苦手にせず「まずは書く」という意識改革を行う。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○県より平均が高い ○基本的な知識問題の正答率は高い ●市の平均より低い ●時代ごとに輪切りに覚えている生徒が多く、時代のつながりを意識しながら学習ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の太文字となる基本事項を徹底的に確認していく。 ・各授業の冒頭で行う小テストを、一年生からの復習を盛り込み、忘れていた内容をもう一度確認させる機会を増やしていく。 ・歴史のつながりが分かるように、「前の時代」と「今の時代」がどのような部分でつながるのかを意識させた取り組みを行う。 ・「日本と世界のつながり」や「日本国内でも離れた地域でどう関わりがあったのか」という大きな視点で歴史をとらえる見方を意識させる。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	37.8	37.6	37.5
	身の回りの物質	47.8	50.5	49.1
	植物の生活と種類	68.8	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	39.7	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	47.8	49.4	48.5
	観察・実験の技能	45.3	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	46.3	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

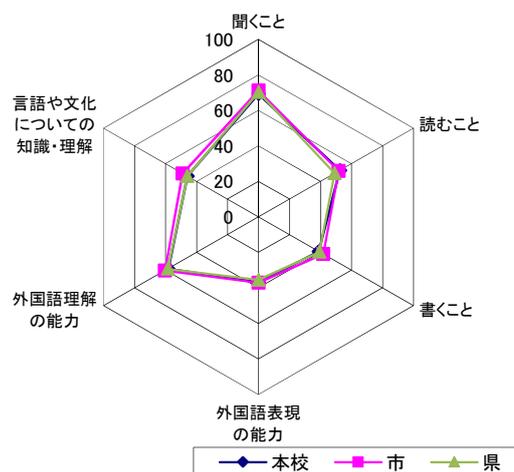
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○平均正答率は、県、市の値を上回っている。 ●「光と音」の正答率が低い。 ●光の進み方や音の波形の設問において、県平均よりも正答率が下回っている。	・身近なところで見られる科学現象を取り上げながら授業を展開することで、科学的な思考や表現を身に付けさせる。 ・目に見えない現象が多い分野なので、実験や映像などを積極的に取り入れ、生徒が少しでもイメージしやすい内容を整えていく。
身の回りの物質	○「状態変化」の正答率は、県、市の平均を上回っている。 ●平均正答率は、県、市の値を下回っている。 ●「物質のすがた」「水溶液」の正答率が、どちらも県、市の平均を下回っている。	・体積の求め方や密度の計算でつまづいている様子が見られる。計量器の目盛りの読み方については、様々な実験の基本となるので、常に指導を徹底していく。また、計算問題に対する苦手意識が強いので、小テストなどで少しずつ慣れるよう工夫する。
植物の生活と種類	○平均正答率は、県の値を上回っている。 ○「生物の観察」については、平均正答率が県、市の値を大きく上回っている。 ●「植物の体のつくりと働き」については、県、市の平均を下回っている。	・植物の体のつくりの名称や分類のポイントは、覚える用語が多い。そのため、丸暗記に頼ってしまう生徒が多く、時間が経つと忘れてしまいがちである。根拠をもとに知識が付けられるよう、そうなる理由やいろいろな知識との関連を取り上げた授業展開を心がける。
大地の成り立ちと変化	○実験から推測する問題(記述式)の平均正答率は、県の値を上回っている。 ●平均正答率は、県、市の値を下回っている。 ●「火山と地震」「地層の重なりと過去の様子」の正答率が、どちらも県、市の平均を下回っている。	・岩石のつくりや分類については、実物を用いることで色や肌触り、粒の大きさの違いを、体験的に学習させていく。 ・化石や地層については、規模が大きく実物を用意するのが難しい内容である。しかし、受け身の授業になることなく、映像資料などをうまく利用し、問題演習も取り入れながら学習を進めていく。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	69.3	71.1	70.2
	読むこと	52.5	51.8	49.1
	書くこと	38.9	41.8	39.4
観点	外国語表現の能力	36.8	37.1	35.5
	外国語理解の能力	58.2	60.4	58.5
	言語や文化についての知識・理解	45.9	49.0	46.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○まとまりのある英語の聞き取りの正答率が良好。</p> <p>●本校の正答率は、市の平均より1.8%、県の平均より0.9%低い。</p> <p>●疑問文の聞き取りや絵に関する英文の聞き取りの正答率がやや低い。</p>	<p>・絵に関する英文の聞き取りの力を伸ばせるように、画像や映像など視覚に訴える教材などを使いながら、英語でやり取りをする時間を増やしていく。</p> <p>・英語を聞き取る活動をALTとのやりとりの中で多く取り入れていくことで、対話文を聞きとる力を伸ばしていく。</p>
読むこと	<p>○本校の正答率は、市の平均より2.9%、県平均よりも3.4%高い。</p> <p>○英語の案内などの読み取りや、長文の読解などの正答率は良好である。</p> <p>●文法の理解の正答率がやや低い。</p>	<p>・様々なまとまりのある英文や長文に多く触れさせ、簡単な日本語で概要をまとめさせる練習を継続していく。</p> <p>・文法のドリルの学習の時間を取り入れ、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>・英文の内容に関する英語や日本語の質問に正しく答えられるように、様々な問答を繰り返し行う。</p>
書くこと	<p>○語順の理解などに関しては、平均値を上回っている。</p> <p>●本校の正答率は、市平均より2.9%、県平均より0.5%低い正答率となっている。</p> <p>●テーマに基づく英作文の正答率はやや低い。</p>	<p>・英作文を書くための基本的な語彙力や文法を定着させるために、単語テストや文法テストを継続して行っていく。</p> <p>・様々な形態でスキットづくり(場面・状況を考え、対話の流れを意識した対話文を作成すること)を行い、与えられた場面や対話の流れに合うように英語で表現する練習を多く取り入れる。</p> <p>・テーマに基づいて英作文を書く練習を継続して行っていく。</p> <p>・より充実した内容の英作文を書くために、必要な関連語句や様々な表現を紹介する。</p>

宇都宮市立古里中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と学校でのできごとについて話をしている」の肯定的回答は82.5%で県平均より2.1ポイント、「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定的回答は89.2%で県平均より1.3ポイント、「家でのかまりや約束を守っている」の肯定的回答は90%で県平均より3.9ポイント上回っている。また、「家の人、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定的回答も県平均より2.8ポイント上回っており、家庭で認められ、家庭での生活に満足している生徒が多い様子がうかがえる。○家庭学習では、「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答が99.2%で県平均より4.4ポイント、「家で学校の授業の復習をしている」の肯定的回答が77.0%で県平均より3.9ポイント、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の肯定的回答が68.3%で県平均より5.3ポイント上回っている。家庭学習の習慣がついており、本校の家庭学習ノートの取組の成果が表れていると考えられる。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「自分が持っている能力を十分に発揮したい」「人と話すことは楽しい」「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」に対する肯定的回答は県平均と比較すると下回っているものの8割を超えている。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」では肯定的回答が県平均を超えており、自分の回りの出来事や人に対する関心を持ちそれらの役に立ちたいという気持ちも見られ、社会性が高い生徒は多い。地域でのボランティア活動やあいさつ運動への積極的な参加を今後も推進していきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定的回答は49.2%で県平均より8ポイント、「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答は42.5%で県平均より9.6ポイント下回っている。また、「自分は勉強がよくできる方だと思う」では学力層AとC.D層との差が非常に大きい。生徒の中に自己有能感を持ってない生徒がとて多いことがうかがえる。一方「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答は70%である。自信をもって学校生活を送れるように、生徒ひとりひとりのよさや頑張りを認め、称賛する場面を増やしていく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と考えている生徒が県平均より6.8ポイント上回っている。「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と考えている生徒は県平均を7.6ポイント下回っている。また、「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」では10ポイント、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」では8ポイント県平均を下回っている。「友達と話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができる」は95%、「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」は70%の生徒が肯定的回答をしており県平均を上回っている。自分の意見や考えを上手に発信できるような支援や方策が授業の中で必要だと思われる。

●教科の好き嫌いや理解度については、全体的に学力層のAとDで大きな差が見られる。基礎的・基本的な内容を丁寧に扱い定着を図っていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語活動を取り入れた、主体的・対話的な深い学びの視点からの授業改善	・自分の考えを書いてまとめ、発表する活動を全教科で意識的に行っていく。 ・どのように考えをまとめるか、どんな発表をするかについて、具体的に指示していく。	生徒質問紙で、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と考えている生徒が県平均より6.8ポイント上回っている。「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と考えている生徒は県平均を7.6ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学習の定着状況は、数学以外の教科で、宇都宮市の平均を下回る項目がある。特に各教科、記述をめぐる問題において下回る傾向がある。	・言語活動、特に書くことを取り入れた授業の工夫と改善 ・学力向上につながる家庭学習ノートの活用 ・付箋辞書を使つての語彙力を高める取り組み	・授業中、またテストにおいても記述の内容を増やし、どのように考えをまとめるか、どんな発表をするかについて、具体的に指示していく。 ・家庭学習ノートの内容についても充実させる声かけをしたり、付箋辞書を活用した取組を増やしていく。